

## 開催報告

## 第23回日本医療マネジメント学会学術総会

## 第23回日本医療マネジメント学会学術総会

会長 亀山雅男

(社会医療法人生長会ベルランド総合病院理事長)

第23回日本医療マネジメント学会学術総会を2021年7月15日(木)～30日(金)の間、完全Webオンデマンド配信にて開催させていただきました。大阪での開催は第17回学術総会以来6年ぶりとなり、全国からご参加の皆様にご満足していただけるよう、5月連休までは現地開催と一部オンデマンド配信のハイブリッド開催にすべく鋭意準備を進めてまいりました。しかしながら、予定会場であった「大阪国際会議場(グランキューブ大阪)」が、新型コロナワクチンの国直轄『大阪大規模接種センター』として使用されることが急遽決定しました。また、大阪府における変異株の新型コロナウイルス感染(第4波)患者数の高止まりと、確保病床を大幅に超える重症患者数の推移、さらに全国においても感染拡大していることもあり、完全Webオンデマンド配信での開催を余儀なくされました。ご参加いただきました皆様には、発表形式の変更など多大なご不便をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

ただ、こうした非常に厳しい状況の中にもかかわらず、本学術総会には3,142名の方に参加登録いただき、オンデマンド配信には4万件を超えるアクセスがありました。参加者と対面での討論こそ叶いませんでしたが、ご講演やシンポジウムではビデオ収録にあたり熱い議論を交わしていただくなど、多くの方々にご参加いただき心より御礼申し上げます。

さて、ここ1年半の間、世の中がコロナ禍に翻弄されている中、医療・介護面でも容易には解決できない課題が山積しています。地域医療構想では、病院の機能を明確にしつつ再編・統合を推進し、2025年の医療提供体制の枠組みを決めたいとしています。さらに、2040年に向けた医療の三位一体改革は、医療従事者、特に医師不足も合わせて乗り切るためのものです。大きくは、地域包括ケアシステムを深化・推進させ共生社会を構築することを念頭に、“様々な改革を通じて生産性の向上を図ることにより医療・福祉サービスが確実に提供されるようにしたい”と、国は考えています。具体的な対応策は、IoTやAIを駆使したり、外国人介護職員の雇用や、“健康寿命延伸”を目指して高齢者にも働く機会を増やす等、できるだけ公助に頼らず、まずは自助から互助、共助を基本とする仕組みづくりが求められます。こうした背景から、今回の学術総会では、「今、医療・介護に大切なこと～変革に挑戦する～」をメインテーマとさせていただきます。

プログラムは、基調講演、会長講演のほか、特別講演3題、招待講演3題、教育講演4題、教育セミナー2題、シンポジウム12題などの指定講演を26セッション計69題と一般演題としました。一般演題は、791題をご応募いただきましたが、28題の取り下げがあり、最終763題が発表されました。コロナ関連の一般演題も105題と多く、医療の質、医療安全、病院運営をはじめ多種多様な取り組みと研究成果について発表され、Web上ではありますが情報の収集と交流をしていただけたものと思います。また、当初予定していた市民公開講座は、学術総会参加者対象の招待講演3に変更いたしました。

基調講演では、宮崎久義理事長より「医療福祉介護の現場の課題ー連携を中心にー」をテーマにご講演いただきました。学術総会の歩みや支部活動の報告、学会活動の現状と今後についてお話があり、「withコロナの今、postコロナに向けて新しい取り組みを進めていく委員会・支部活動の充実、情報発信の場を作ることだけでなく、行政に現場の課題を知ってもらい、解決に向けて一緒に議論していきましょう」と呼びかけられました。

会長講演では、亀山より2040年に向けた地域医療構想、働き方改革、および医師偏在対策の三位一体改革について、生長会・悠人会グループのタスクシフト、DX、アジア健康構想、スマートシティ、地域医療連携推進法人制度の取り組み等、医療提供体制の集約や統合の必要性とともに、地域で守る地域包括ケアシステムについて述べさせていただきました。

招待講演1では、元大阪府知事・元大阪市長の橋下徹氏に「改革の進め方ーコロナ禍時代の不安を乗り越えてー」と題し、これまでの経験や具体例を挙げながら組織づくりや意思決定の在り方を中心にご講演いただきました。今後は感染症も入れ込んだ地域医療計画、特に“役割分担・連携”に焦点を絞り計画すること、医療側のマネジメントが重要であり、いかにそのプランを生み出し実行する“装置(組織・体制)”を作るか。その“装置”が出来上がらない中でコロナ対策を打ち出してもうまくいくものではなく、そうした体制整備に国を挙げて力を入れていくことが重要になると話されました。

招待講演2では、青山学院大学陸上競技部長距離ブロック監督の原晋氏から「箱根駅伝から学ぶ人材育成術～より良い組織作りがより良い人材を育てる～」と題して、ゼロから日本一のチームを作り上げる17年間の取り組みについてお話いただきました。「組織力で勝負する」をキーワードに、より良い組織がより良